

神仏



『マンガでわかる仏像』※
三宅久雄監修 誠文堂新光社
2014

どのような仏像であるかは、仏像の長い名前を分解すると分かります。分かると面白くなって会いに行きたくなります。一番のおすすめは、三十三間堂の「千体千手観音立像」、圧巻です。会いたい人に似た像が必ずあるそうです。

『京都お守り手帖』※
光村推古書院編集部編
光村推古書院 2005
京都には多くの神社仏閣が現存しています。中には珍しいご利益のある社寺もあります。もちろん縁結びに強力な社寺もありますよ。お願い事に合わせた社寺巡りができるのも、京都ならではですね。

KYOTO

はと時計 10月号 第226号

秋もたけなわです。秋の京都へ♪

お出掛けができなくても、これらの本で京都

を堪能してくださいね。

松蔭中高図書館 2020年9月28日発行

library@shoin-jhs.ac.jp

担当：高村

英語で紹介



『新装版 日本を知りたい 和の美をめぐる50の言葉』※
木村孝著
ハースト婦人画報社 2012
日本のならわし、季節の行事、草花、節気、着物・・・私たちの暮らしは、和の美と共にあります。英訳したリーフレットも付いていますので、日本文化を海外で紹介する際にも役立てられます。

『SOU・SOU 京菓子あそび』
関谷江里著 世界文化社 2017
老舗の和菓子店、亀屋良長が、京都で人気のテキスタイルブランド「SOU・SOU」の絵柄から発想してお菓子を作ると、季節感にあふれた数々の和菓子が一層鮮やかに表現されます。文章が英語で併記され、その他、節気、日本文化、食べ物の英語での説明文も載せられています。

食



『ようかん』虎屋文庫著 新潮社 2019
京都に本店を置くようかんの老舗、虎屋による書籍です。「ようかん」のルーツは、なんと“ひつじの汁物”！今のようかんの形状とは全く違うことに驚きます。日本には12世紀～16世紀に中国から伝来しました。文豪 夏目漱石も愛した「ようかん」にまつわる深い内容の一冊です。

『お茶の味 京都寺町一保堂茶舗』
渡辺都著 新潮社 2015
こちらは、京都のお茶の老舗の店主の妻による一冊。季節を大事にしてお茶を楽しむ、くつろぎのひとときを提案します。お茶を飲んでほっこりしませんか～。



『もっと知りたい京野菜』上田耕司著 淡交社 2014
京都の老舗のやおやさんが書きました。京野菜とは、京都市内で栽培された旬のもののみを指します。興味深かったのは、『葱』についての件です。東京では、青い部分は食べず白いところだけを、京都では、青い部分を好んで食するという食文化の違いもあるということでした。

『京のおぼんざい100選』※
松永佳子著 平凡社 2010
京都の日々のおかず-おぼんざい-のレシピ本です。「晴」の日も「け」の日も、優しいお味付けで季節のお料理が味わえます。

『つよかしこく美しく京女レシピ』※
京都女子大学栄養クリニック監修
本願寺出版社 2015
美肌作り、貧血予防、カロリーダウン、快腸レシピなど女性に嬉しいヘルシーレシピが満載です。大学の付属研究施設が監修しました。

案内

GUIDE

『本屋の窓からのぞいた京都～恵文社一乗寺店の京都案内～』
恵文社一乗寺店著 毎日コミュニケーションズ 2010
本だけでなく雑貨小物も置く“セレクトショップの様な本屋”の先駆者の書店からの、京都のいろいろ紹介本です。ちょっとディープな京都へいかがでしょう。

『森見登美彦の京都ぐるぐる案内』
森見登美彦著 新潮文庫 2014
自著に登場させた京都のスポットをぐるぐるときまよいます。森見登美彦さんの随筆も載っています。他の作品もお薦めです。

『KYOTO 本屋さん紀行』※
玄光社 2013
個性を全面に打ち出した京都の23軒の本屋さんを掲載しています。



『京都のちいさな美術館めぐり』
岡山拓・浦島茂世著 GB 2015
京都にはちいさな美術館もたくさんあります。京菓子資料館や、京町屋、茶道や茶の湯釜専門のミュージアムなどの京都の伝統に関する美術館も多々あり、ミュージアムグッズも楽しいですよ。読書運動(中高生)にも挙げられています。

『京都うつわさんぽ』※沢田眉香子著
光村推古書院 2010
京都は茶の湯やお料理の文化と共にうつわにも歴史あり、技ありです。骨董から、新進の作家ものまで様々あります。豆皿はかわいらしくてお家でも気軽に使えそう。京都でうつわ屋さんをのぞいて回るのも癒やされます。

読む



『ニーチェが京都にやってきて17歳の私に哲学のこと教えてくれた。』※
原田まりる著 ダイヤモンド社 2016
19世紀の哲学者ニーチェが、現代の若者の姿を借りて京都にやって来ました。そして今ドキの女子高生17歳のアリサに、難しいイメージの哲学を分かり易く教えます。サルトルやキルケゴールもやって来ます。心が軽くなるお話です。

『京都ざらい』井上章一著 朝日新書 2015
著者は、京都市で生まれ育ったのに、屈託なく「京都出身」と言い切ることができません。言い切らせてはくれない? 「京都人」について書いています。

『あやかしとおぼんざい ふたごの京都妖怪ごはん日記』
仲町六絵著 メディアワークス文庫 2016
進学を機に金沢から京都に引っ越してきた仲良し双子の直史とまどかは、なぜか京のあやかしの物語りを書くことになってしまいました。京都の名物や特産品、おぼんざいも出てきておいしそう。2巻もあります。